

## なっちゃん隊 深掘りレポート Vol. 3 牛のお世話（今編）

先週は昔の牛のお世話についてまとめてみましたが、今回は、機械化が進んだ現在、牛のお世話がどのように変わったのかについて、振興局なっちゃん隊が調べてみました。



牧草地や牛舎の脇に積み上がっている牧草ロールは、酪農地帯ならではの風景。牧草を乾燥させて巻いたモノのほか、白や黒のビニールで密閉したモノは、昔ながらのサイロと同じ原理で発酵させることで、サイレージという一種の酢漬けが出来上がっています。

次は乳搾りです。今はミルカーと呼ばれる機械で搾乳を行い、搾った牛乳はそのままバルククーラーと呼ばれる牛乳の貯蔵庫と冷却器を組み合わせたものに保管されます。



大規模な酪農家では、丸いパーラーに牛が勝手に入っていく、一周する間に搾乳が完了するもの（ロータリーパーラー）もあります。人は別の作業をされているので、作業効率が格段に上がります。

搾乳や放牧の間に牛舎を掃除するのは、今も昔も同じ。ただし、ふん尿や古い敷きワラの片付けにも機械化は進んでいます。



どんなに機械化が進んでも、酪農家は、日々愛情をもって牛と向き合っています。生き物を育てる仕事の大変さは昔から変わっていません。今、日本の食卓に欠かすことの出来ない牛乳、チーズ、バターなどの乳製品は、こうした多くの酪農家が支えてくれているのです。